オンライン化雑感

札幌市医師会
市立札幌病院
藤田　靖幸

コロナ禍の影響で、2020年は学会や講演会が軒並み中止になりました。その一方で、ｅ-ラーニングやオンラインでの講演会や学会が急速に普及してきているのはご承知の通りです。オンライン講演会の最大のメリットは、会場にわざわざ赴かなくとも、自宅や出先で気軽に参加視聴ができる点です。確かに、自分の興味のあるテーマで、かつ自律的に参加ができる真面目な先生方にとっては、講演会参加のハードルが下がって非常に素晴らしいことなのだと理解します。

翻って私はどうかというと、コロナ禍に突入してから自主的に視聴したオンライン講演会は、実はこの原稿を書いている時点で２回しかありません。複数の製薬会社が似たような顔ぶれで同じような講演会を続々と開催しても、よほど内容やタイトルに新規性がみられなければ、視聴する気力は生まれてきません。

視聴環境に難があると、更にハードルが上がります。私のように子供に自室を追われた人間にとっては、自宅のリビングで参加しても集中しきれず、専門医更新ポイントを集めるのが精一杯で意義ある勉強は困難です。職場も、昨今の働き方改革のおかげで業務外目的の居残りは問題視されてしまいます。

従来の直接集合する様式では、演者や座長の先生へのご挨拶を兼ねて、そして製薬会社様がタクシーチケット等をわざわざ用意してくださる手前もあり、多少聞き飽きたテーマでも出席する意欲（強制力）がありました。聴講したら思いのほか勉強になった、ということも少なくありません。しかし、オンライン化されてパンドラの箱が開き、私の本質である怠け癖が露呈されてしまいました。

運営面も、まだ慣れておらず各自が手探りをしている状態です。座長や演者として参画すると、必ず何かしらのトラブルに見舞われます。先日は、話す内容をPowerPointの発表者ツールに落とし込んで演者に臨みましたが、いざ話す段になって発表者ツールが表示できず、土壇場でアドリブの無様な姿を１時間も配信することになってしまいました。事前に運営側とは何度も確認をし、ツールが表示されることを確約していても、結局こうなってしまうのです。安定した運営方法が確立されるまでは、しばらく時間が掛かりそうです。

Zoom社の株価はうなぎ登りですが、保守的な老害に片足を突っ込みつつある私は、早く会場を使った対面の集まりが復活してくれないかと祈る毎日です。

北海道における医療サービスへの公平なアクセス

帯広市医師会
JA北海道厚生連帯広厚生病院
加納　崇裕

十勝という土地で医療を行っていると、否が応でもその広さを実感せざるを得ない。北海道に住んでいる者にとって、100kmという距離は特段遠く感じる距離ではない。通院している患者も、苦もなく40kmあまりの距離を乗り越えてやってくる。これは北海道特有のものであり、４年間ほど神奈川県の一都市で診療していた頃には経験しないものであった。首都圏では10km以上も離れた医療機関に通うことはほとんどない。

３年前から十勝地方の中心地である帯広市で脳神経内科医として診療に従事しているが、まだまだ北海道においては医療ニーズに十分に応えられていない診療科である。昨今の高齢化に伴って増加しているアルツハイマー型認知症やパーキンソン病など認知機能や運動機能が障害されて生活に支障を来して診療を求めてくる患者が後を絶たない。東西100km、南北150kmに渡る広大な十勝地方において、脳神経内科医が常勤しているのは帯広市に２病院のみである。患者によっては通院に片道２時間以上かかることもあり、高齢者や障害者にとっては決して容易なことではない。まずは患者の自宅住所を確認することが日々の診療において常となっている。

医療への公平なアクセスは国民の権利であるが、北海道で診療を行っているとその達成は難関だと思わざるを得ない。距離の問題は容易に通院できる範囲に全ての診療科を置くことで解決を図ることが可能だが、必要としている患者数を考えると採算性が低く実現性は低い。今のところ地域医療を行う医師の幅広い診療にすがる部分が大きいが、彼らには最新医療はもちろん、その時代の標準とされる医療情報に接する機会が少なかった。この新型コロナウイルス流行により唯一のよかった点は、WEBによる講演や学会開催、医療情報の提供がより一般的になったことである。専門科にこだわらず総合的な医療を目指す若き医師が増えて、当院にも総合診療を志望する研修医が多く在籍する。今後、彼らが地域医療を担うとして、常に新たな医学知識に触れられる環境を整備するとともに、各地域では魅力ある住環境であることをアピールして、とかく都市部に集中しがちな医師の配置バランスを是正できるよう自助努力を重ねる必要がある。これまで大学医局の人事や行政の求人のみに頼っていた医療スタッフの確保を、若手医師のニーズに応え都市部と見劣りしない魅力ある医療圏であることをアピールすることで地域に貢献できればと思う。